

只見野鳥雑記 ①

セキレイたちの 栄枯盛衰

▼今月号から六回連載で
只見の野鳥シリーズが
始まります。執筆は野
鳥観察歴三九年という
新国勇さんです。

▼鳥の世界でも、特定の
鳥が増えたり減ったり
しているようです。ま
た、只見ならではの鳥も
いるとか。今回の連載
で、じっくり解説して
いただきます。



▲左からキセキレイ、セグロセキレイ、ハクセキレイ
(いずれも雄)

セキレイの仲間は、私たちの
身近で見られる馴染み深い鳥で
す。日本には五種類のセキレイ
が確認されていますが、只見町
ではキセキレイ・セグロセキ
レイ・ハクセキレイの三種類がい
ます。いずれもスマートな姿と
長い尻尾を上下に振る習性があ
ります。

よく知られているキセキレイ
は、黄色い腹が印象的な鳥です。
三月下旬、チチン、チチンとやさ
しい声で春の訪れを知らせてく
れます。玄関先の郵便ポストの
上や庭の鉢などに巣をつくって
繁殖し、夏を迎えるころには見
られなくなりません。人家付近に
巣を作るのは、ヘビやカラスな
どの天敵から逃れるためです。
あえて人の生活空間に入り込
み、人を用意棒としているので
す。ツバメも同じ行動をとりま

す。人の方では、キセキレイもツ
バメも害虫を食べる益鳥なの
で、捕まえるとバチがあたると
か火事になるとか言って大事に
してきました。子育てを保障す
るかわりに、害虫駆除をお願い
していたわけで、お互い持ちつ
持たれつの関係でした。

セグロセキレイは、白と黒の
ツートンカラーという粋なかつ
こうをして一年中生息していま
す。川原でチーチージョイジョ
イジョイと鳴きながら飛びまわ
り、川原の周辺に巣を作つて子
育てします。三月ころから、人家
近くの電線に止まってさかんに
さえずりますが、主な生息場所
は河川周辺です。

ハクセキレイも白と黒のセキ
レイで、セグロセキレイとよく
似ています。しかし、ハクセキ
レイはその名のとおり顔が白つぽ
いので、顔が黒いセグロセキ
レイと区別できます。鳴き声もセ
グロセキレイと比べると、にご
りがなく澄んだ声です。このハ
クセキレイは、四〇年ほど前の
只見町ではたいへん珍しい鳥で



▲今ではすっかり数が減ったセグロセキレイ

一九七〇年代ころには東日本へ
も侵入していったようです。一
方、セグロセキレイは二〇一三
年からまったく見かけなくなっ
てしまいました。キセキレイの
方は、かろうじて残っています
が、ハクセキレイに押され気味
です。

只見町では、キセキレイをセ
キレイ、セグロセキレイをカー
ラジョージと呼んでいました。
カラジョージとは、おそらく
川原掃除の意味で、尻尾をせわ
しなく振る動作をほうきではく
姿にたとえたものと思われま
す。当然ながら最近になって増
えたハクセキレイに方言名はあ
りません。

セグロセキレイは日本特産種
で、世界的には珍しいセキレイ
です。日本固有の鳥が世界じゅ
うに分布する鳥に追い立てられ
ているのを見ると、鳥の世界も
グローバル化してきているとい
えそうです。見方を変えれば、地
域特有の生態系が失われ、世界
中が似たような環境に変わって
きているのかもしれない。